第148回 長崎大学FD実施報告書(平成29年4月4日提出)

1. 題 目:グローバル化に向けた英語授業展開のあり方について

2. 日 時:1回目:平成29年3月 1日(水)13:00~16:00 2回目:平成29年3月18日(土)13:00~16:00

3. 場 所: 教養教育棟 A-12

4. 主 催:英語小委員会・言語教育研究センター

5. 对 象:教養教育英語担当教員

- 6. 長崎大学FDに関する指針第二項への該当について【複数選択可】 (該当するものに○を記入すること)
 - [](1) 教員の教育活動に関するもの
 - [](2) カリキュラムの改善に関するもの
 - [](3) 教育の組織的改善に関するもの
 - [](4) 入学者選抜方法の改善に関するもの
 - □ □ (5) その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの
- 7. 今回のFDの趣旨・意義(6. に関連した形で記述すること) <1回目>

「グローバル人材の育成」と「大学の国際化」という大きな要請に応えるために、長崎大学では、平成 27 度 9 月から長崎大学独自のグローバル事業として着手した「長崎グローバル+コース」を開始し、本事業の土台と位置付ける学部横断型英語特別プログラム「Special Course in Academic Skills (SCAS)」を学生へ提供している。SCAS においては、過去のデータ等から、比較的英語力が高い学生においても欠けていたと考えられる運用能力 speaking や writing を含む academic skills の訓練を行っている。

SCAS の講師陣は、Northern Arizona University で TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages) の専門的訓練を受け、日本、トルコ、マカオ、コロンビア等、世界各地の英語特別プログラムで教鞭をとってきた経験と実績があり、TESOL そのものも研究活動も精力的に行っている。

今回の FD では、SCAS で行っている教授法の一端を紹介し、非常勤講師を含む参加者で 討議する。特に、本年度は、指導の具体例、特に speaking と writing の指導法に焦点をあ て、実際の授業風景をビデオで紹介した後で、指導法について議論を行い、英語教育の改善に資する。

さらに、これまでの G-TELP や TOEIC-IP の数年間のデータを学部ごとに分析し、それ を紹介することで、英語指導の課題や改善点を検討した。また、3-STEP の必修化による学 生の取り組みの様子や問題点をアンケート調査から分析して報告し、その課題を検討する。 <2回目>

外国語教育の改革においては、グローバ化人材育成の視点から、いわゆる運用能力育成に向けた教育改善が必要である。このような状況の中、長崎大学における外国語の授業(教養教育)では、Input の養成においては、オンライン CALL 教室を整備し、教育改善を行ってきた。具体的には、リスニング力養成のためのオンライン e-learning 教材(3STEP システム)、語彙力増強のための e-learning 教材(Power Words)の整備を進め、その学習を必修化するとともに、全学部の学生を対象にテストを実施し、学習の成果をあげる努力をしてきた。しかし、今後は、グローバル人材育成に向けた Output Skill の効果的な養成も必要であるので、そのための教授法について研修する。

今年度 FD では、1回目の SCAS 講師陣による教授法の研修に続いて、「国際英語」(World Englishes) という視点から英語教育を実践し、国際英語の理念に基づく英語教育および多文化共生教育を専門とする外部講師を招聘して研修を実施し、4技能の中の Output の多様な指導方法についても知識を深める。

加えて、これまでの G-TELP や TOEIC-IP の数年間のデータを学部ごとに分析し、それ を紹介することで、今後の教養教育の英語に関する課題や改善点を検討する。また、3-STEP の必修化による学生の取り組みの様子や問題点をアンケート調査から分析して報告し、更 なる英語指導の改善を図る。

8. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること) 1回目:

挨拶(言語教育研究センター 稲田俊明センター長) 13:00~13:10
SCAS Team Presentation on TESOL(質疑応答含む) 13:10~14:40
Nickolas Verde, Kerry Pussey

Coffee break $14:40 \sim 14:55$

3. G-TELP, TOEIC-IP の成績分析、3-STEP アンケート調査について

(言語教育研究センター 小笠原真司 教授) 14:55~15:15

4. 平成 29 年度教養教育英語科目の取り組みおよび変更点

(言語教育研究センター 小笠原真司 教授) 15:15~15:40

5. 全体討議(質疑応答) 15:40~16:00

2回目:

1. 挨拶(言語教育研究センター 稲田俊明センター長) 13:00~13:10

2. グローバル化に向けた英語授業展開のあり方について 13:10~14:40 講演「国際語としての英語教育とその指導法」日野信行先生 大阪大学教授 **70** 分質疑・応答 20 分

Coffee break $14:40\sim14:55$

3. G-TELP, TOEIC-IP の成績分析、3-STEP アンケート調査について

(言語教育研究センター 小笠原真司 教授)

 $14:55 \sim 15:15$

4. 平成29年度教養教育英語科目の取り組みおよび変更点

(言語教育研究センター 小笠原真司 教授)

15:15~15:40

5. 全体討議(質疑応答)

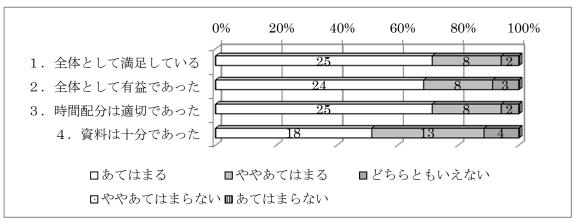
15:40~16:00

9. 参加者:延べ 45名(3/1 20名、3/18 24名) (内訳)

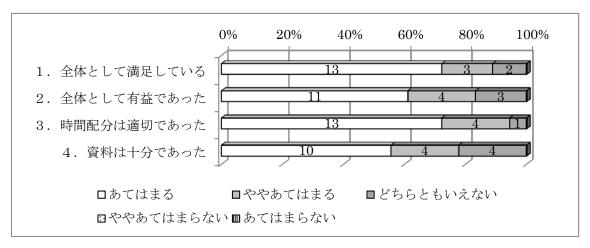
所 属	人 数
言語教育研究センター	11
多文化社会学部	1
教育学部	3
経済学部	5
医歯薬学総合研究科	1
非常勤講師	23
計	44

- ※ 別紙に参加者名簿を添付してください。
- 10. 実施したFDの成果等
- (1) 参加者からの評価 (アンケートの集計結果を記述する)

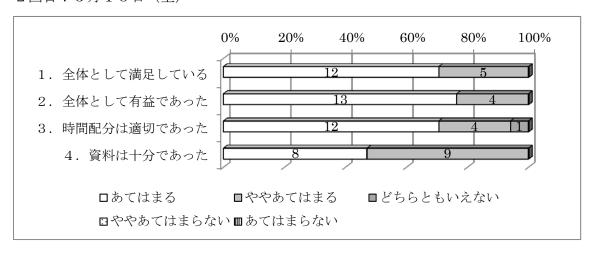
全体



1回目:3月1日(水)



2回目: 3月18日(土)



- ●今回のFDの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。
- 1回目:3月1日(水)
- ・英語母語話者の先生方と日本人の先生方のセクションを分ける試みがあってもいいのか なと思いました。
- ・SCAS Team のお二人の先生の Presentation、大変参考になりました。有難うございました。
- ・PPT スライドのコピーをいただければ助かります。
- Kerry & Nick's presentations were very inspiring.
- ・SCAS の取り組みについて聴くことが出来、非常に勉強になった。ただ、SCAS プログラム以外のクラス、学生とは、英語力やモチベーションの高さが異なると思われ、プレゼンテーションとディスカッションにおいてギャップを感じた。英語力やモチベーションがあまり高くない学生に対してどのように適用するかなどもお話しいただけるとありがい。

- ・SCAS の先生方がどのように授業に取り組んでいらっしゃるのかを知る良い機会となりました。Teaching method を照会して頂き、勉強になりました。ありがとうございました。 次の機会には、学生さんの実際の授業風景や、どれくらい話したり書いたりするようになるのか、学生さんの writing や speaking を参考に見せて頂けたらうれしいです・・・。
- The FD presentations were informative. A comparative look at TOEIC scores and the G-TELP in promotion of e-leaning was well presented. Moreover, Dr. Verde and Dr. Pussey's mention of "lexical bundles" was interesting.
- ・FD なので、基本的な英語教育の知識、motivation に関することなど、もう少し短時間にして、具体的な取り組みや、この大学での成功例をもっと紹介してほしかった。ただ、他の様々な大学から来られている先生方と情報交換もできる有意義な機会を設けて頂きましたことは、感謝しております。

2回目: 3月18日(土)

- ・大変良い研修会でした。ありがとうございました。
- ・普段お会いすることの出来ない先生からのお話を伺うことが出来て大変貴重な経験をさせていただきました。私は授業中に学生さんたちに実際にコミュニケーションを英語で取ってもらう時間を多くとっているので、インプット、アプトプットをより多く出来るよう指導していきたいです。ありがとうございました。
- ・日野先生の講演はとても素晴らしいものでした。「国際英語」の概念、教育、日野先生の 取り組みを時間内で手際よく講演されて、これからの授業を考える上で大変参考になりま した。どこかで先生の講演を拝聴する機会があれば、もっと勉強したいと思います。
- ・「国際英語」という、大変興味深いテーマで勉強させていただき、どうもありがとうございました。成績分析、今後の取り組みもお示しいただき、助かりました。どうもありがとうございます。
- ・日野先生の Japanese English に関してのお話、とても興味深かったです。参考になりました。ありがとうございました。
- ・授業の内容についてとても参考になりました。
- ・日野先生の講演がとてもよかったです。今日の部に参加してよかったです。
- ・日野先生のお話からは得ることがたくさんありました。ありがとうございました。
- 勉強になりました。
- ・可能であれば、日野先生の提示資料の印刷物があれば助かると思いました。(先生のご都 合もあるかと思いますので、可能であればということです。)
- ・G-TELP/TOEIC-IPの説明も、授業を行うのによい参考になった。

(2) 総 括 (10 (1) を踏まえFD全体の総括を記述する)

平成28年度の英語科目のFDは、非常勤の先生も多く、できるだけ多くの先生方に参加していただくため、2回に分けて実施しました。結果として、2回とも校務等で参加できなかった先生はわずか5名で、参加者の延べ数45名であり、専任、非常勤ともほとんどの英語担当の先生方に参加していただきました。

第1回目は、昨年に続き SCAS の講師陣による、Writing と Speaking に関しての Output の指導の講演と実演でした。FD 参加者をペア―にして、Writing と Speaking の 指導法や問題点を英語で討論させるなど、とても Active な内容で、多くの先生方に満足してもらえたようです。また、Nickolas Verde,と Kerry Pussey のお二人が行われた講義内容も要点がわかりやすく、まとめられており、Writing と Speaking の指導法に関して有意義な情報を与えていただきました。お二人の講義内容に関する資料が、パワーポイントでの提示のみであったので、紙ベースの資料を希望される先生方が多くおられたようです。来年度以降は、配布資料も用意してもらうようにしたいと思います。

第2回目は、大阪大学大学院教授日野信行先生による「国際語としての英語教育とその指導法」の講演でした。グローバル社会との兼ね合いでの、World Englishes のお話はとても新鮮で、参加者から高評価を得ました。Native の英語がすべてではなく、non-native の英語の大切さやその存在意義などを説き、多方面からこれから私たちが目指すべき英語教育の姿をご教示いただきました。日野先生からは、参考文献や講義の内容の概略を示したハンドアウトは用意していただいたのですが、パワーポイントによる講義内容の資料を希望される先生方も多くおられました。これも、日野先生の講義内容がフロアーの先生方の興味を喚起した証拠ですが、今後は講演者に可能ならば、パワーポイントの一部でも紙ベースで用意していただくよう、前もってお願いすることも大切と感じました。

第1回目も第2回目も、後半は、言語教育研究センターの小笠原による G-TELP, TOEIC-IP の成績分析、3-STEPアンケート調査についての報告を20分程度で行いました。また、平成29年度教養教育英語科目の取り組みおよび変更点も15分程度で説明し、新年度からの評価方法等の情報を共有していただきました。特に、G-TELP, TOEIC-IP の成績分析、3-STEPアンケート調査の報告は、今後の英語指導に役立ったとのコメントもいただきました。

今年度のFDは、2回とも参加者が多く、質疑応答や講師の話を聞く姿などから、参加者の熱意が感じられるFDでした。参加者からの評価からも、満足度が高いことが確認されました。

11. 実施代表者の連絡先

部 局:言語教育研究センター

職 名:言語教育研究センター長 氏 名:稲田俊明

e-mail:inadat@nagasaki-u.ac.jp 内線:2379

12. 申請者の連絡先

部 局:言語教育研究センター

職 名:教授 氏 名:小笠原真司

e-mail: ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp 内線: 2094